

今年もやりまっせ!

イベント目押し

桜の季節も終わり静かな民俗村が訪れられます。なんまのんきなことを言っただけはいられないんです。昨年来新型コロナ感染防止で様々なイベントが中止に追い込まれましたが、今年は縮小しながらもさくらまつりも開催されました。感染防止対策をしっかりとしながら、皆様をお迎えしたいと思います。そこで、これから予定されている園内イベントをお知らせします。

第2回夏手のクラフト村

昨年も実施され好評だったクラフト村。先日15・16日にはアラド祭土市を開催しました。がグレードアップした内容を開催しているのがこのクラフト村。県内手づくりで制作している品々を展示販売するほか、期間中の土日祝日には作り手の人たちが来マワークシヨップを行います。岩手が誇る味わい深い逸品の制作過程を、作り手さんの指導を受けながら実際に体験してみましょう。皆様のお越しをお待ちしております。



サーカスマルシェ

《なんでもない日が特別な日に》
ワクワクを詰め込んだ場所も時間も縛られない自由でちよっとおかしなマルシェ

昨年はコロナ感染防止で中止に追い込まれましたが、一昨年、晴天のなか大好評だったサーカスマルシェが開催されます。民俗村では「このマルシェのおかげで若い

方々の来園が増えた」と神話のように語り継がれております。今年は2日間開催で約50店舗の出店が、賑やかに盛り上がる予定です。実行委員会ではコロナ対策に傾注し来場者の事前申し込みを行っております。入場時に受付で混雑しないようへの配慮です。詳細はチラシQRコード、もしくはインスタで検索してみてください。



端午の節句

民俗村は旧暦で運営しているのはご承知のとおりですが、6月14日は旧暦5月5日。そう端午の節句なのです。例年、入口に鯉のぼりを設置し、シヨウワとヨモギを民家の軒先に飾り、他には5月人形を飾ったりしましたが、今年は新たな企画として新聞紙を使った刀とカトブクリを行います。わんぱくチビツ集まれ。



秋の収穫に向けてマ田植を完了!

5月16日(日)。曇り空でしたが民俗村の田んぼ作業ははじまりました。民俗村では「結っこゆいっ、田んぼ」と呼んでいます。むかし茅葺屋根の葺き替えや田んぼ作業などを近隣の人たちが互いに協力し合っただけのことから「結っこゆい」と呼ばれ、短期間で大勢の人手が必要な前回の作業などは、お互い助け合いながら行っていたのです。今日はグズさんとこの田植え、明日はオレンと、明後日はタロウさんとこの田植えというように、隣近所十数人で結を組んで行っていました。世界遺産で有名な白川郷の合掌造りの茅葺屋根の葺き替えには今でもこの制度が残っており、1日ないし2日位で終わらせる葺き替え作業には数百人の人手が必要であること、材料となる茅も大量に必要なことから集落で茅場を作った数年前から準備するなど共同作業が不可欠でした。今では生活様式も変わり、共同作業をすることがなくなり、大多

数の人が勤めに出る隣近所との関係も希薄になってしまっています。ややもすると隣に住んでる人が分からなかったり、顔見知り程度でどんな仕事をしているのかまではななまことも。民俗村たんぼ事業に「結」をつけたのも、人と人との交わり・つながりの大事さへの気づきも出来ればとの考えもひとつにあります。
わざわざ手作業で米作りを体験することで、お口に入るまでの過程をじっくりと堪能できる企画となっています。今回は第1回目の「田植え」でした。最初は裸足で腿まで泥につかり「嫌だ」と悲鳴にも似た声を上げていましたが、慣れると大人顔負けで斜行することなく上手に手で植えられました。やっぱり子どもは泥まみれが似合いますね。



バツタリ復活!

皆さん気付いてました? 県道から坂を上ったすぐのところ。左側の沢を隔めた向かいにあるバツタリを新調しました。「バツタリ」とはその音から来たのでしょね。日本庭園には「バツタリ」で知らない、あの「カッコン」で知られる鹿威し(シシオドシ)の仕組みそのままに、人力で行った製粉作業を水力を利用してオートマチック化。まさにノーカーボンの再生可能エネルギーを利用する、国連の提唱するSDGsを最先端でいっまるのだ。

このバツタリは私たちがここに来た時にはすでに動かなくなっていました。水桶は壊れ、覆う茅葺の屋根もすき間があり、バツタリ本体が見え過ぎちゃって困るのー状態。バツタリ修繕後はカラクリを壁様に見えたかごとと通路側の茅は取っ飛ばして見えます。今年の夏もトレンドの、いわゆるシースルー。今後、もう少し手をかければ「なるへそ」と言っていたように整備していきたいです。昔の作業風景そのままに。学びの場も提供していきます。何せ北上市が誇る社会教育施設なのですか? (一)



藩境くつきり

江戸幕府成立後の寛永18年(1641)、もめたい仙台藩と盛岡藩の藩境が幕府の裁定により確定しました。両藩はその境に大小の塚を作り、これを目印としました。今ですと境界杭がずな。西は奥羽山脈の駒ヶ岳山頂から、東は現在の釜石市平田(へいた)と唐丹(とうたん)の境。全長130kmになります。詳細を知りたい方はお隣の博物館常設展示をご覧ください。

さあ、悲しいかなその歴史遺産と言える藩境が民俗村を横断していることはいま知り知られていません。そこで、どうにか訪れる皆さんに分かりやすく、なおかつ景観にマッチした目立つ方法はないかと考え、民俗村に相応しいのぼり旗の設置にすることにしました。藩境である間の沢を挟み、南側には「仙台藩伊達領」、北側には「盛岡藩南部領」と設置しました。県道を通る車両から見やすいように、県道わきにある復元した領境塚周辺にも設置しました。デザインが似通つまるので分かりづらいつの意見も寄せられますが、まずは第一弾としての試みです。ご感想をお待ちします。



南部仙台藩境・境番所図



自然観察会大好評

3月から始まった令和3年の自然観察会。実は昨年夏ころからホームページやチラシなどでの一般募集せずともリーダーの皆様がご参加いただけまあり、募集要項もすっかりと作成することがありませんでした。今回についても3月の観察会終了時から「次回分の参加申し込みを！」という方が多く、当初予定の定員15名はすぐに埋まってしまうようです。うれしい悲鳴ではありますが、主催者側としては果たして参加者が多くなった場合でも満足していただけるかという点で悩まされます。鈴木講師とも打ち合わせたのですが、参加者が多い場合は多いのりの開催方法で対応していきますよと。ただし、制限はやはり必要で今回の30名を上限に、無線式の拡声器を使用しつる方向で実施していくことにしました。もちろん、少人数でじっくり講師の話を聞きながら実施したいのですが、希望者が多いということも考慮に入れ開催してまいりますのでご理解ください。



市広報「展勝地風土記」

北上市広報に年4回掲載されている「展勝地風土記」。展勝地公園100周年事業の一環として、展勝地に関するこ

とを紹介するため、その分野に精通している方々に執筆いただいたものがあります。今回は展勝地周辺の自然観察会講師の鈴木清明さんが執筆されています。「みちのく民俗村周辺の生き物調査」と題し、ご自身で踏査された結果をまとめられられています。内容は自然観察会でも取り上げられ、野草好きの方々にはバイブル的な内容となっていますので是非ご覧ください。北上市広報4月23日号がお手元のない方はインターネットで「展勝地風土記」を検索していただく北上市ホームページ内のものが表示され

民俗村のソングが見どころ

いも爺がお勧め!

民俗村にはご存じ10棟の古民家が民俗村には多くの建造物が建っているが、意外と知られていないのが山野草。春夏秋冬様々な顔を見せまくれる草花がナントさ種類以上で近隣でも見られない貴重種もあるとか。今年も観察会が始まっているが、講師先生のわかりやすい説明が評判で事前申し込みも即定員になる盛況がぶりだ。民俗村の魅力をまずは足元から。

民俗村ガイドボランティア募集

民俗村を訪れるお客様に園内をご案内していただくガイドボランティアを募集しています。ご興味のある方はスタッフにお問い合わせ下さい。

